

フィールドを積極的に広げ、
地域との交流を深める歯科医院
くろい歯科クリニック 院長 黒井 建志 先生



DOCTOR'S TALK 05-08

開業時の苦労を経て、一人ひとりの患者を大切に
地域から厚い信頼を得る歯科医院
さくら歯科 院長 小野 貴司 先生



THE FRONT LINE 09-12

受け継いだ歯科医院を地域の基幹となる
歯科医院として、さらなる発展を目指す
中村歯科医院 院長・袖ヶ浦インプラントセンター 所長
中村 武仁 先生



DENTAL REPORT 13-15

予防とメンテナンスを強化し、
歯科衛生士が活躍する新タイプの歯科医院
エムズ歯科予防・口腔ケアクリニック 歯科衛生士 高田 麻央 さん



Care & Communication

ケア&コミュニケーション

2016. September Vol. 40

INSIDE REPORT

くろい歯科クリニック



広々とした駐車場があるくろい歯科クリニック



家庭的な雰囲気の待合室



駐車場の向かいにある歯科医院の公園「クロミンパーク」



公園オープンの際には大勢の地域住民が訪れた



オープニングイベントではバンドの生演奏も

フィールドを積極的に広げ、 地域との交流を 深める歯科医院

くろい歯科クリニック 院長 黒井 建志 先生

三重県多気駅から徒歩10分ほどの距離にある「くろい歯科クリニック」は4代続く歯科医院。黒井建志院長が診療を支えるようになってから、歯科医院前に公園を設けたり、若手歯科医師の勉強会を主催するなど、積極的に地域と関わっている。



黒井 建志 院長



窓側のチェアからは公園の緑が見える



診療室には半個室風のチェアが6台、個室が1つある



デザインを工夫した仕切り



個室では家族と一緒に受診できる

黒井院長の帰郷をきっかけに 「公園のある歯科医院」として再スタート

「くろい歯科クリニック」に向かうと、歯科医院の駐車場から続く場所に青々とした芝生が美しい公園が見えてくる。名前は「クロミンパーク」。黒井建志院長が「地域の人たちが集まれる場に」と考えて作った。3月のオープニングイベントには300人も集まり、音楽の演奏やバーベキューなどを楽しんだ。今では「公園のある歯科医院」としてシンボルにもなっている。

この公園を始め、黒井院長は、地域の若手歯科医師が集まる勉強会、職種が違う人々が交流する異業種交流会、伊勢市の地元テレビへの出演など、精力的に活動している。診療で忙しい身にも関わらず、地域の活性化にも力を入れるのは、黒井院長が一度、故郷を離れた経験があるからだ。

黒井院長は岡山大学歯学部を卒業後、岡山や東京の勤務医として働いてきた。実家は黒井院長で4代続く歯科医院。しかし、黒井院長は「実家を継ぐつもりはなかった」。歯科医院の激戦地、東京で開業してみたいという気持ちがあったからだ。それが変わったのは、父の

黒井満名誉院長の病気がきっかけだった。

「父からサポートを求める連絡が入り、実家を助けるために東京と三重を行ったり来たりする生活が始まりました。地元に戻ってみると、やはり愛着がありますし、自分にしかできないことがあるのではないかと、ということに気づいたのです。父やスタッフからの期待もあり、次第に地元に戻る気持ちが固まってきました」

院内のコミュニケーションを密にし、 スタッフの独立心を育てる

黒井院長が実家に戻り、本格的に診療に関わりだしたのは2013年。そこから、くろい歯科クリニックの変革は始まった。

「父が口腔外科専門だったこともあり、予防歯科は歯科衛生士たちが自発的に取り組んでいました。歯科衛生士たちがそのまま勤務し、私が考えるメンテナンスも重視する歯科医院への改革を助けてくれたのは、とても心強かったです」

歯科医院はスムーズに受け継ぐことができたが、課題もあった。一つは患者とのコミュニケーションの問題だ。

INSIDE REPORT

くろい歯科クリニック



整理整頓された準備コーナー



カウンセリングコーナーもリニューアル時に新たに設けた

長年、通う患者が多く、年齢層も高かったことから、「悪いところを治す」診療に専念してきたが、将来性を考えると、ニーズを的確にキャッチし、患者と一緒に治療や予防に取り組む体制を整える必要があった。また、院内のコミュニケーションも、スタッフたちの自主性を育て、チーム医療に移行する必要があった。

「とはいえ、堅苦しいルールを導入するとスタッフもとまどいます。まずは朝礼をミーティングの時間に換え、毎日、報告と確認をするようにしました。小さい改革ですが、院長とスタッフが一緒に話し合う場が必要と感じたからです」

また研修にも力を入れた。評判が高い歯科医院への見学会を積極的に取り入れ、遠方に向かうときはバスをチャーターし、全員で訪問した。座学も大切だが、自分の目で先端を走る歯科医院を見ることがスタッフの向上心を刺激すると考えたからだ。

「それまで知る機会がなかった他院のやり方にスタッフはかなりのカルチャーショックを受けたようです。どんな点が自分の歯科医院に不足しているか、見学した歯科医院のよいところをどう取り入れると無理がないのか、熱のこもった話し合いができるようになりました」

黒井院長がなによりもうれしかったのは、スタッフに自立心が芽生え始めたことだ。月1回の勉強会も幅が広がり、歯科に留まらず、医科のテーマを取り上げることもあった。たとえば、皮膚科の医師からはアレルギーに

ついて学んだ。心理カウンセリングの手法の一つ「NLP」の資格を取得したスタッフもいる。

患者の居心地を重視した内装に換え、訪問診療にも取り組む

現在のくろい歯科クリニックは最先端のデザインではないが、温かな居心地のいい雰囲気が漂っている。黒井院長が着任してすぐ行ったリニューアルのおかげだ。明るい雰囲気の木目と白を基調にした内装に換え、モニター類などの機器も見直した。看板もインプラントと矯正歯科を行っていることが分かる表示に変えた。個室やキッズスペースを設けたり、車椅子でも利用できるようにバリアフリーにも配慮した。

情報発信にも力を入れ、歯科医院の概要が分かりやすいようにホームページでは院長やスタッフの写真などを多用。ブログもこまめに更新し、親しみやすい内容を心がけるようにした。リニューアルしたばかりの頃は、地域の医療情報紙やフリーペーパーも活用し、くろい歯科クリニックの存在をアピールしたという。

「それらの変化が口コミで伝わり、ファミリー層の患者さんが増えました。将来はメンテナンス環境を整えるため、ケア専用ルームも作りたと思っています。現在、月間で500人のメンテナンスの患者さんがいますが、まだケアが



待合室の横にあるキッズコーナー



車椅子も完備している



トイレの中はおむつ交換用ペーパーベッドを設置



CTを完備

十分とは言えません。予防に力を入れることで、子ども時代から歯を守ることも可能になりますし、より患者さんのためになる診療ができると考えています」

訪問診療を本格的にスタートさせたのも、黒井院長が着任してからだ。現在、休診日に行っている家庭への訪問診療は黒井院長が担当し、月1回の施設訪問は父の黒井名誉院長が担当している。介護施設は近隣の6施設に訪問しているが、施設のケアスタッフに口腔ケアの指導を行うこともあるという。

他業種の人とも積極的に交流し、人がつながる歯科医院を育てたい

黒井院長は地元住民との交流にも積極的に取り組んでいる。高齢化や車社会が進んだことで、住民同士の交流が減っていると感じているからだ。

「これからの歯科医院として、治療だけでなく、交流の場としての機能も持たせたいと思っています。公園を作ったのも、そんな場になれば、という考えからでした」

また、「GOENの会」と名づけた異業種交流会も立ち上げた。メンバーは医師や農家、飲食業、マッサージ師などさまざま。30人ほど集まり、勉強会を開いているという。

「交流するだけでなく、みんなで高め合いたいと始めました。精神科の医師やリハビリテーションの専門家を招いて講義を受けたり、チャリティセミナーを開催し、売上げの一部を地域の社会福祉協議会に寄付したこともあります」

近隣の若手歯科医師で学び合うスタディグループも立ち上げた。地域医療の向上には情報交換も欠かせないからだ。

歯科医師の枠を超え、さまざまな挑戦を続ける黒井院長。なぜこれほどまで意欲的に活動できるのだろうか。「大切な故郷ですから、みんなを元気にしたいんです。職業人としてはもちろんですが、それ以上に、まず人として必要とされたいと思っています。人と人をつなげるのが好きなんじゃないかな」



黒井院長とスタッフのみなさん

Profile

黒井 建志 先生

- 2002年 岡山大学歯学部卒業。岡山大学大学院インプラント再生補綴学専攻
- 2005年 医療法人しみず歯科勤務
- 2009年 東京ミッドタウンデンタルクリニック勤務
- 2011年 くらい歯科クリニック副院長就任
- 2015年 くらい歯科クリニック 院長就任
- 松阪地区歯科医師会理事
- 三重県立公衆衛生学院 講師
- スタディグループ CYS「Change Your Smile!」主催
- 「松阪GOENの会」会長

くらい歯科クリニック 住所:三重県多気郡多気町相可西巡り793-5 TEL:0598-38-2152 HP:<http://www.kuroi-dc.com/>

DOCTOR'S TALK

さくら歯科



ライティングの工夫で夕方からの眺めも美しい外観



高い天井と窓のある明るい待合室



内装は床材や白壁の色にもこだわった

開業時の苦労を経て、 一人ひとりの患者を大切に 地域から厚い信頼を得る歯科医院

さくら歯科 院長 小野 貴司 先生

福岡県飯塚市にある「さくら歯科」は地元密着型の歯科医院。患者からの信頼も厚く、Nd:YAGレーザーの講師を務めることもある小野貴司院長だが、開業当時は苦労したという。その歩みを伺いながら、レーザー治療の症例も紹介していただいた。



小野 貴司 院長



治療用の診療スペース。仕切りをなくして開放的に



予防歯科用のケアスペース。清潔感のある白が基調

開業から5年で移転し、 建物を新築

「さくら歯科」は外観から内装の隅々にまで、小野貴司院長の「患者さんが気持ちよく過ごせる環境を」というこだわりが息づいている。天井から床まで大型ガラスが覆う外観は、すっきりと美しく、看板の「さくら歯科」の文字は控えめだ。

車の通行量が多い国道沿いの歯科医院ということもあり、一般的に考えれば、大型の看板を掲げたほうが周囲から目立つ。しかし、あえて出さないのは、「歯科医院の存在そのものを地域のランドマークとして認知してもらいたい」との考えからだ。

院内の床材にはメープル材を多く使用。診察室に並ぶ3台のチェアの正面には、庭の樹木が目に入るようにうまく配置されている。

「メープル材にこだわったのは、人間の肌の色に近く、リラックスできる色合いだからです。壁の白も微妙に異なるトーンのなかから、一番、気持ちが安らぐ白を選びました」

さくら歯科の開業は2005年。2010年に200メートルほど離れた現在地に移転し、新規開設した。

開業から5年目で移転新築と聞くと、順調な道のりに思えるが、現在のさくら歯科にたどり着くまでは、さまざまな苦労があった。

回り道を経て、歯科医師を志すが 開業時は苦労が続く

小野院長の実家は、祖父、父、叔父が歯科医師という代々、続く歯科医院。だが、10代の頃はボクシングに夢中で、歯科医師になるつもりはなかった。また、父からも歯科医師を目指すように言われたことはなかった。

小野院長の気持ちが変わったのは、高校を卒業してからだ。将来に悩む自分に比べ、高校時代の同級生たちは新しい未来に向かって歩んでいる。その姿を目の当たりにし、自分は社会に対して何ができるのかを追求するようになった。そして、出た答えは、「やはり歯科医師の道しかない」というものだった。

「歯科大学に入学したとき、すでに私は20代半ば。ストレートで入学した同級生に遅れをとっています。負けたくないという気持ちが卒業後、3年で開業に踏み切るきっかけにもなりました」

開業に選んだ飯塚市は、奥様の実家近く。一軒家を借り、内装をリフォームし、チェア3台からのスタートだった。

「訪問診療にも積極的に取り組みたかったのですが、初日の患者さんは2名。1年後も10人という状況でした。訪問診療も半年間はゼロ。経営は大変でしたが、私もまだ勉強が必要な身。時間があることをメリットと捉え、空き時間は必死で勉強しました」

現在、小野院長がNd:YAGレーザーのセミナー講師を依頼されるのも、この頃から続く、勉強熱心な姿勢があってこそだ。

また、来院数は少なくとも、一人ひとりの患者と正面から向き合い、大切に治療するしかない、とも考えた。

「患者さんに信頼してもらうには、日々の積み重ねしかありません。少しずつ口コミで評判が広がり、移転する頃には、1日40～50人の患者さんが来てくれるようになりました」

本当に困っている患者のため、 訪問診療にも力を入れる

現在、さくら歯科を訪れる患者数は1日60人ほど。チェアはオープンスペースに3台、個室に3台ある。オープンスペースと個室を設けたのには理由がある。患者と密に

DOCTOR'S TALK

さくら歯科



通路を広く取った動きやすい準備コーナー



待合室から診療室に続く通路。
右側にカウンセリングスペースがある



CTを完備

コミュニケーションをとるには、顔がつねに見渡せるオープンスペースのほうが都合がいい。ただし、同医院には近隣の大学に通う留学生やベンチャー企業の社員など、外国人の患者も少なくない。そこで、個室も用意し、プライベートを重視する患者にも対応できるようにした。「念願の訪問診療にも力を入れられるようになってきました。複数の高齢者介護施設を中心にまわっていますが、通院していた患者さんのお宅に通うこともあります」

さくら歯科は、開業時から木曜日は訪問診療と決め、外来を休んでいる。開業当初の経営が苦しい時期も、木曜日のローテーションは崩さなかった。「訪問診療で言うと、本当に困っている患者さんが多い。損得勘定を抜きにして、できる限り力を尽くしたいと痛感します」

小野院長が訪問した患者の中には、終末期の人もいた。新しく入れ歯を作っても、使う期間はわずかだ。しかし、小野院長は丁寧にぴったりと合う入れ歯を作った。「最期まで自分の口で食べたい」という本人や家族の思いに応えなかったからだ。「亡くなった後、棺桶に入れ歯を入れてくださったという話を聞いたときは、歯科医師としての使命を果たせたと思いました」

患者を守りたい院長の熱意が
強い信頼感を生み出す

小野院長の熱意に共感し、今、訪問診療には2人の歯科医師が参加している。一人は外来も担当している若手の

歯科医師。もう一人は、福岡市で長年、開業し、熟練の腕を持つベテラン歯科医師の橋本正浩先生だ。

橋本先生は、合気道の世界では知らない人がいないほどの達人。20年ほど前にギランバレー症候群を発症するが、1年間の闘病生活ののちに完治した経験を持つ。小野院長とは、ホームページを通じて知り合った。そして、小野院長の志に共感し、訪問診療を手伝いたいと申し出てきたのだという。「この橋本正浩先生もそうですが、私には不思議な縁のある人が多いんです。患者さんにもお互いに言いたいことを言って、ときにはケンカになることもあるのに、通ってきてくださる方がいる。本気でぶつかれば、分かっていたるものなのですね」

さくら歯科の待合室の本棚には、「絆」の一字が書かれた額が飾られている。その言葉通り、歯科医師と患者という関係だけでなく、同じ人間としての関係性を大切にしたい。そう願う小野院長の熱意が歯科医院の信頼を支えている。



小野院長とスタッフのみなさん

Profile

小野 貴司 先生 ●2003年 九州歯科大学卒業 ●2005年 さくら歯科開業 ●2010年 さくら歯科を移転新築
●～2011年 福岡県立大学非常勤講師

さくら歯科

住所:福岡県飯塚市横田33-3 TEL:0948-22-3317 HP:<http://www.mikku.co.jp/sakura/>

さくら歯科におけるNd:YAGレーザーの活用

さくら歯科 院長 小野 貴司 先生

Nd:YAGレーザーのセミナー講師も務めている小野先生に、さくら歯科ではどのようにNd:YAGレーザーを活用しているのか、根管治療と口内炎改善の2つの症例をご紹介いただいた。



感染根管のレーザー活用と効果

根管内への照射のポイント



- 1/10,000秒の瞬間的な照射により髓空内の殺菌を行う
 - スメアー層の蒸散
 - 根管内の無菌的な乾燥を行う
 - パーフォレーション時の止血
 - 疼痛緩和効果
 - 200、300μmのファイバーで#25、#40以上の拡大により根管壁を直接照射が可能
- パネル設定 80~100mj/15~20pps (Hz)

50代男性、左上根尖部の腫脹を主訴に来院。自発痛なし。当日、感染根管治療及び即根充を行う。その際Nd:YAGレーザーにて根管内照射及びフィステルからの照射を行う。



根管への照射

根管の殺菌・消毒・乾燥時は100mj 20pps 1秒照射。根尖から根管壁に沿わせながらかきあげる。照射を壁全体にするために各方向に1秒ずつ行う。ファイバー先端を根尖からオーバーさせないように注意。

根尖病巣の照射

根管は根尖より病巣へ100mj 20pps 1秒ずつ4回。(根尖より1mmオーバーでも可)

フィステルは病巣内にファイバーを挿入して骨面には触れないように円を描くように照射。

100mj 20pps 1秒照射、5秒冷却4回繰り返す。

根充前の根管内へは殺菌、乾燥のために

100mj 20pps のかきあげ照射を1秒ずつ6方向に行う。

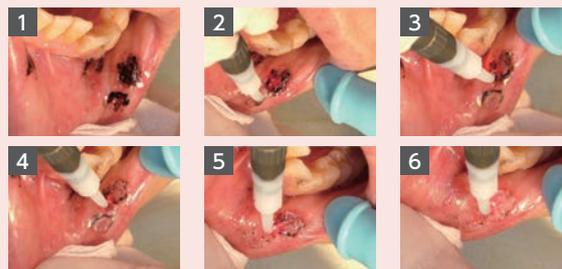


※フィステルよりポイント挿入して原因歯の特定を行う(左上5が原因)



口内炎のレーザー活用

30代女性、多発性アフタ、疼痛を主訴に来院。当日、無麻酔下でNd:YAGレーザー照射のみ行う。



無麻酔(表面麻酔は適宜)。患部に濃縮墨汁を塗布。100mj 20pps。1~2mm離して痛みが出ないように断続照射。墨汁が薄くなるまで照射。以上を2クール行う。

THE FRONT LINE

中村 歯科医院



以前の駐車場に増築し、リニューアルした



ホテルのフロントのような美しい受付



待合室の通路で新旧の建物が結ばれている



中村歯科医院で働く歯科医師の先生方

受け継いだ歯科医院を 地域の基幹となる歯科医院として、 さらなる発展を目指す

中村歯科医院 院長・袖ヶ浦インプラントセンター 所長 中村 武仁 先生

千葉県袖ヶ浦市の「中村歯科医院」は2代続く歯科医院。2009年から中村武仁院長が父の中村幸成前院長をサポートし、歯科医院の中心的な役割を果たしている。患者ニーズの変化に合わせ、どのような歯科医院を目指しているのか、伺ってみた。



中村 武仁 院長



間接照明でやさしい雰囲気を出している診療室



自然光も入るように足下に緑が見える窓を配置



予防スペースは、個室風仕切りの空間に

患者サービスの向上とチーム医療ができる 歯科医院を目指し、移転に踏み切る

中村歯科医院の開業は1978年。以来、地域に根ざす歯科医院として、患者から厚い信頼を得てきた。そして今、ニーズの変化を受け、中村院長が新しい歯科医院づくりに取り組んでいる。

「父が長年、築いてきた患者さんの信頼をしっかりと受け継ぐには、まず技術を磨く必要があります。そこで勤務医時代はインプラントなど幅広く臨床を学び、海外研修にも取り組み、歯科医師臨床研修指導医などの認定医資格も取得しました」

中村院長が父と一緒に働き始めたのは、2009年。どのような層の患者が多いのか、どんなニーズを持っているのか、地域の歯科事情を把握することにも心を砕いた。

そして2010年10月、中村院長が中心となって隣地へ移転し、外観、内装ともに大きく変えた。

「旧診療所では3台だったユニットを5台に、2016年4月には増築をして10台に増やし、専用オペ室やCT、メディフュージ、サージボーン、AEDなどの機器も新しく導入しました。これまでも地域密着型の歯科医院としての機能は備えていましたが、将来を見据え、他の歯科医院では

難しいと言われる症例にも対応できるような診療体制を整えたのです」

新しい歯科医院の配置図はすべて院長が考え、建築家にはその図を元に図面を起こしてもらった。開放感を感じられるように天井は高く取り、壁や床の色、照明にもこだわった。プライバシーを尊重し、一般診療のユニットは半個室に。バリアフリーにも対応し、通路を広くするだけでなく、エレベーターも完備するという徹底ぶりだ。以前の歯科医院との連結も工夫してあるため、教えてもらわなければ、すべて新築と見間違えるほどだ。

「これからの歯科診療は、個人病院でも複数の歯科医師や歯科衛生士が関わり合うチーム医療になっていきます。そうした働き方もできるようにスタッフの動線も考えてリニューアルしました」

事務長職を新設し、歯科医師は 治療に専念できる環境を整える

中村院長はソフト面にも変革を加えた。その一つが移転リニューアルする前の早い段階で、事務長の役職を設けたことだ。事務長を務めるのは、高校時代からの友人でもある平松淳一さんだ。

THE FRONT LINE

中村 歯科医院



2階のオペ室。医科並みの設備を備えている



オペ室にはマイクロスコープを完備



オペ室の横にある安静室。椅子はベッドにもなる



整理された準備室



CTを完備

「歯科医療の幅が広がり、高度化している今、院長が院内のオペレーションも管理するのは時間的に難しい。それならば、私は治療に専念し、院内の管理は事務長に任せられた方が合理的ですし、よりよい歯科医院にできると考えたのです」

平松事務長は前職が営業ということもあり、事務管理だけでなく、コミュニケーションにも長けている。中村院長は人事や社会保険の手続きなどの医療事務をすべて任せている。

事務長職を設けたことで中村院長がなによりも心強かったのは、スタッフとのコミュニケーションがスムーズになったことだ。院長には言いにくいことも平松事務長になら、スタッフも現場の悩みや不満を打ち明けやすい。

「毎日、スタッフの話を根気よく聞いてくれるので、本当に助かっています」

平松事務長の役割は、スタッフとの間を取り持つだけではない。医療とは全く関係のない大手企業に勤務してきた経験から出る意見は、医療の現場で働いてきた中村院長には新鮮に感じることも多い。お互いに忌憚なく話し合えるのも、学生時代からの友人という信頼関係があるからだ。

「リニューアルしたときは父と平松を含め、10人での再スタートでした。現在は歯科医師12名、歯科衛生士10名、看護師1名、歯科技工士2名、歯科助手15名、受付事務9名、クリーンスタッフ5名、ドライバー2名の56名が在籍する大型歯科医院になってきています。短期間で成長させることができたのも事務長というビジネスパートナーを得たことが大きいと感じています」

即時負荷インプラントなどの治療にも対応。
矯正や訪問診療にも力を入れる

現在、中村歯科医院に通う患者数は1日150名ほど。老若男女の幅広い年齢層が利用している。インプラントを希望する患者も多く、評判を聞きつけて東京や神奈川から来院するケースもある。

3階建ての建物には、1階に治療とメンテナンスを行う診療室、2階にオペ室とCTを備えたレントゲン室、預かり保育ができるキッズルーム、技工室、3階に研修室とスタッフルームがある。

日々の診療は、一般歯科とメンテナンスが中心だが、週2日はインプラントオペも行っている。「今では年間150症例ほどを行っています。即時荷重インプラントにも対応しており、その日のうちに食事も出来るので患者さんの満足度はかなり高いと思います」

認定医の資格を持った矯正歯科医が常勤しているのも強みのひとつ。一般歯科との連携も密に行うことができるので、インプラントだけでなく予防と矯正を含めたトータルな診断が可能だ。小児の予防矯正から成人矯正まで、月200名の患者が通院。

また、3年前から訪問診療にも力を入れている。訪問診療を専門で行う歯科医師が2名在籍しており、施設や在宅での診療で現在は1ヶ月に600件、1日20～30人



広々としたキッズルーム。独立した1室を確保



カウンセリングコーナー



3階にある研修室を兼ねたスタッフルーム

ほどが利用しているという。

「訪問チームは、歯科医師と歯科衛生士、または看護師、それに専任のドライバーが組んで診療に当たっています。看護師を採用したのは歯科衛生士では出来ない看護にも対応するためです。看護師がいることで患者さんの体調についてもケアマネージャーや介護施設の担当者とも話がスムーズに進められます」

ホームページで訪問診療が可能な地域、診療内容、費用、健康保険・介護保険の適用範囲などを詳しく紹介していることもあり、年々、依頼される件数は増えている。

スタッフの働きやすい環境を整備。 将来は全身の健康も守れる歯科医院に

チーム医療を重視する中村歯科医院では、スタッフの働きやすさにも気を配っている。

「スタッフ数が多いメリットは、家庭の事情に合わせて勤務時間が調整しやすいことです。スタッフが多くなると、誰かが急に休んでもすぐに他のスタッフがカバーできます」

人事制度や福利厚生も充実しており、社員は完全週休3日制だ。就業規則を整備し、社会保険や産休・育児休暇も完備されている。歯科治療、定期検診、ホワイトニングも

中村歯科医院で受けられ、費用はすべて無料。学会やセミナー等の研修費も全額医院が負担している。

スタッフのうち、6名が保育士の資格を持っているのも、患者へのサービスだけでなく、スタッフの子どもたちの預かり保育もできるように、との考えからだ。

こうした手厚い人事制度や福利厚生が功を奏し、スタッフの定着率は高く、退職するスタッフはほとんどいない。6年前の移転リニューアル時に新規採用した5名も、結婚出産を経て今もなお全員在籍している。

「患者さんのニーズに応えられる歯科医院としてさまざまなチャレンジができるのも、スタッフたちの頑張りがあるからです。今、歯科医院には口腔衛生を通じて全身の健康を守る役目も期待されています。将来的には食育や高齢者の栄養管理までケアできるように、カフェを併設するなど、包括的なサービスにもチャレンジできればと考えています」



中村幸成 前院長(最前列中央)、中村武仁 院長(最前列右)とスタッフのみなさん

Profile

中村 武仁 先生

●2002年 日本歯科大学卒業 ●2003年 波多野歯科医院勤務 ●2009年 中村歯科医院勤務 ●2014年 東北大学大学院歯学研究科博士課程修了 ●日本歯科大学附属病院臨床講師 ●厚生労働省歯科医師臨床研修指導医認定 ●インディアナ大学医学部解剖学認定医(顎顔面頭蓋部臨床解剖) ●国際口腔インプラント学会認定医 ●日本口腔インプラント学会会員 ●日本臨床歯周病学会会員 ●介護支援専門員(ケアマネージャー)

医療法人社団夢仁会 中村歯科医院・袖ヶ浦インプラントセンター

住所:千葉県袖ヶ浦市神納1-7-5 TEL:0438-62-4849 HP:<http://www.nakamura-shikaiin.com/>

DENTAL REPORT

エムズ歯科予防・口腔ケアクリニック



三叉路の角にあり、看板がよく目立つ



親しみやすい雰囲気を受付



赤いソファをアクセントにした待合室



ポップな絵を飾るなどして明るい雰囲気に

予防とメンテナンスを強化し、 歯科衛生士が活躍する 新タイプの歯科医院

エムズ歯科予防・口腔ケアクリニック 歯科衛生士 高田 麻央 さん

「C&C」37号で取材した東京・東中野の「エムズ歯科クリニック」が昨年10月、新しい歯科医院をオープン。予防と口腔ケアを中心に歯科衛生士が活躍する新しいタイプの歯科医院だ。

リーダーの高田麻央さんに開業からの様子を伺ってみた。



高田 麻央 さん

予防歯科を前面に押し出し、 歯科衛生士が主体的に働ける場を作る

「エムズ歯科クリニック」(以下、エムズ歯科)は、東京と神奈川に9つの歯科医院を展開する大型歯科医院だ。理事長の荒井昌海先生は、ステップアップ式の研修・人事制度を設けたり、週2~3回は自分のホームグラウンド以外のエムズ歯科に勤務するローテーション制度を取り入れたりと、ユニークな経営と診療のスタイルを取り入れている。

そのエムズ歯科が、東中野の本院から徒歩圏内に「エムズ歯科予防・口腔ケアクリニック」(以下、予防・口腔ケアクリニック)をオープンさせた。これまでのエムズ歯科と違うのは、予防を前面に押し出し、歯科衛生士が主体的に働く場を整えたことだ。

常勤は大塚正喜院長と高田麻央さんを含む3人の歯科衛生士。高田さんは、エムズ歯科に勤務する歯科衛生士全員のリーダーでもある。まずは高田さんに、どのような患者が訪れているのかを聞いてみた。

「クリーニングをもっとしっかり受けたいというご希望が多く、ホワイトニングを希望される男性も少なくありません。私がエムズ歯科に勤務し始めた8年前に比べ、予防や審美への関心が高くなっていると感じています」

5月のデータでは、1カ月で318人の患者が来院。開院以来、右肩上がりで患者数は増えている。予防・口腔ケアクリニックは、虫歯など一般歯科の治療も行っている。メンテナンスを希望していても、診察してみると治療が必要な患者も多い。その場合は、治療と並行しながら、クリーニングも行うことになる。

「私たちの使命は患者さんの歯を守ることです。クリーニングへの興味がきっかけになり、歯科医院への敷居が低くなるのは、とてもいいことだと思っています」

内装や予防用品にも 歯科衛生士のこだわりが活きる

予防・口腔ケアクリニックは、高田さんたち歯科衛生士が中心になり、内装にもこだわった。女性らしい感覚を活かした明るく、温かみのある院内は居心地がいい。設備も最新機器を導入。セファロを設置したのは、矯正治療の患者も集約する考えがあるためだ。

予防用品にも高田さんたちのこだわりが現れている。たとえば、スイス製の歯ブラシ「クラブボックス」もいち早く



限られたスペースを効率よく使った診療室



チェアの色もアクセントカラーの落ち着いた赤に



今、予防歯科で注目を集めている「クラブボックス」の歯ブラシ

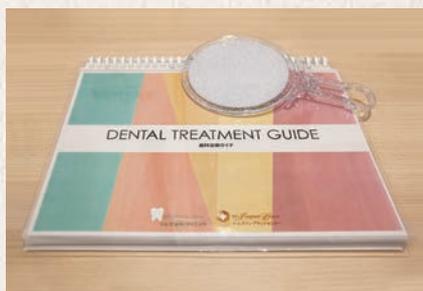
取り入れた。大量の極細ファイバーが高密度で植毛されているのが特徴で、高田さんは日本でのティーチング資格を取得するため、海外で短期研修を受けているが、初めて使用したとき、毛が歯の隙間にさーっと入っていくのに驚いたという。

歯面研磨ペーストも重要だ。エムズ歯科では、「プロフィーライン」を採用している。用途に合わせて粒子の細かさを選べるところが使いやすいと話す。

「歯科衛生士は歯科医師と患者さんの間を取り持つクッション材」と話す高田さんは、患者への情報伝達にも気を配っている。短時間での確かな情報を伝えるために、「メドバイザー」や口腔内カメラを使い、写真や図版を多用したエムズ歯科独自の資料を多数、作成。それらの資料を

DENTAL REPORT

エムズ歯科予防・口腔ケアクリニック



チェア全てに置かれている患者説明用ガイドと手鏡



口腔内カメラで必要に応じて口の中を直接、患者に見せている



明るく作業のしやすい準備室

使いチェアサイドで説明するだけでなく、自宅に帰ってからも確認ができるように、治療やPMTCの内容が分かる小冊子を患者に渡しているという。「予防・口腔ケアクリニックには、忙しいドクターには話せないこともゆっくり相談できるのではないか、という期待を持っていらっしゃる患者さんも少なくありません。私たちも専門の歯科医院を持つことで、これまでなかなかお伝えできなかった歯のメンテナンスをじっくり指導する余裕も持てます。コミュニケーションを密にすることで、よりよい口腔環境が保ちやすくなりますし、自費診療など治療の幅も広がると考えています」

歯科衛生士の自立心を育て、活躍の場を広げるホームグラウンド

エムズ歯科では、歯科衛生士が長く活躍できるように、職場環境や人事制度に力を入れてきた。高田さんは予防・口腔ケアクリニックができたことで、働く環境がさらに向上したという。「3か月に1回のメンテナンスで虫歯が予防できると考えている患者さんもありますが、大切なのは毎日のセルフケア。歯ブラシ指導(TBI)の時間がしっかりとれば、予防効果が上がります。効果が実感できれば、患者さんの

モチベーションが上がり、積極的に来院して下さいます。それが私たちのやる気の向上にもつながるのです」

また、その好循環は歯科衛生士のスキルアップにもよい刺激になっている。エムズ歯科では予防・口腔ケアクリニックを歯科衛生士のホームグラウンドと位置づけ、ふだんは他のエムズ歯科で働く歯科衛生士がローテーションで勤務する際には、研修施設としての機能も持たせている。将来的には予防・口腔ケアクリニックをベースに訪問診療にも取り組む予定だ。

「主体的に動けるクリニックで働くことは、歯科衛生士の自立心の育成に役立ちます。エムズ歯科ではさらなるスキルアップを目指し、藤田保健衛生大学で2週間、口腔ケアの研修も取り入れています。歯科衛生士は夢のある仕事。その素晴らしさを予防・口腔ケアクリニックで生き生きと働く私たちの姿を通して伝えてきたいです」



高田さん(左から2番目)と大塚院長(右から2番目)とスタッフのみなさん

Profile

高田 麻央 歯科衛生士

●2009年 東邦歯科医療専門学校卒業、エムズ歯科クリニック入社 ●歯科メーカー主催のブラッシングセミナーの講師、「エムズ歯科の予防歯科への取り組み」のテーマでデンタルショーや歯科研修会のセミナー講師も多数、務める

エムズ歯科予防・口腔ケアクリニック

住所:東京都中野区東中野5丁目4番7号 三喜ビル1F TEL:03-6304-0190 HP:<https://ms-dental.com/>



SASAKI Care & Communication Vol.39 May 2016 お問い合わせ・ご意見:『C&C』事務局 細谷俊寛

FAX 0120-566-052 <http://www.sasaki-kk.co.jp>

発行:ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。